

22/3/24(木) 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 石垣・埋蔵文化財部会（第48回）
終了後の佐治所長ぶら下がりインタビュー

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

記者：今日は天守台石垣の件が久しぶりに出たのですが、保存方針の件とか新しく決まったことはあるのでしょうか。

佐治：あの、新しく決まったというか、いずれも冒頭挨拶でも申し上げたように、文化庁からの指摘事項について、去年回答は返したのですが、そこで残っている部分についてあらたに調査を加えて、それがまとまったものだから、結果を踏まえて御深井丸側の対策であるとか、から小天守西側の影響であるとか、天守台については補修をしていかないといけないということもあって、それは保存方針の概要ということを示させていただいた。その3点セットを文化庁の方に返していきたいと思っていますところ。

記者：解体は必要ないということですが、こういう保存方針でやっていくということか

佐治：そうですね、劣化しているところを樹脂などで補修した上で、さらに劣化が著しいところについては、直接触れないように非接触の工法と言うことで、今回フレームで囲んで板を貼って、という工法を提案させていただいて、それを了解いただけたのかと思います。

記者：非接触工法というのは今回初めて？

佐治：初めてです。

記者：それは今後検討していくことになる

佐治：そうですね、御深井丸側でも使えますし、他にも例えば使った方がいいというところがあれば、それは他の場所にも応用していければいいなと思います。

記者：今の石垣部分を触らず壊さずと言いますか、工法が見つかったということですか

佐治：そうですね、解体という話もありますが、その解体するのではなくて、今の現状のまま、できるだけ工夫を加えながら内堀の保護工をしていく、仮設を設定していくという提案が認められたのかなということでございます。

記者：一旦これで解体作業ではなくて補修していきながら進めていくことができるというようなことになっていきますか。

佐治：そうですね、石垣には保全対策を加えた上で堀を埋めていって、仮設の工事を行っていくという方式ですけど、はい。

記者：ちょっと今回、江戸時代以前、以降の石垣の取扱いについて話題になりましたが、そのあたりはどうなりましたか

佐治：ちょっとこれからの検討課題、根本的な話してはありますが、今日その石垣の保存方針 天守台の概要的などところを見ていただきまして、実は来年度1年間かけて天守台の石垣の保存計画のもうちょっと細かい部分を作っていこうと思っているんですね。ゆくゆくは天守台だけではなくて名古屋城全体の石垣の保存方針というものを今後3年くらいかけて作っていこう、そういう計画がございますので、大天守台が先行する形になりますが、そういったところで整理したものが全体でうけとましていくという中で、今日のご指摘があった、明治大正昭和の石垣をどうするかということについて、検討しながら齟齬がないように整理をしていきたいなというふうに思っています。

記者：そもそもの話しになるんですが、やはり石垣をどうにかしなければ木造天守閣の話しにはやっぱりたどり着けない。なんでとにかく石垣をまずは

佐治：しっかり対策を施した上でということですので。その考え方は変わってありませんので。

記者：わかりました。ありがとうございます。